

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 25年 4月 9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891700064		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター取手	ユニット名	2F
所在地	〒 302-0021 茨城県取手市寺田4697-1		
自己評価作成日	平成 25年 4月 9日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームは強制や規制をして生活をする場ではなく、協力し合いながら安心をして共同生活を送る“いえ”との考えのもと、入居者同士が補いあえないところを、専門の知識と経験を有するスタッフが対応し、技術はもちろんそれを勝る真心で入居者様の生きるお手伝いをさせていただく。今行っている介護を、親類・両親・自分が受けたい、あるいはこの施設に入りたいと思える施設作りをしていくため、社内・外の研修を受け、高レベルの技術と知識の修得を日々心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“互いに自ら考え、学び、意欲的に行動し、支えあい、導きあい、尊重し、地域の一員として活動し、地域交流の場となるホーム作りを目指す”以上の理念を掲げ現在に至るまでの入居者様、ご家族様・地域の方々の尊厳・存在を尊重しつつ地域の一員として馴染んでいけるよう、地域活動に意欲的に参加しつつ溶け込めるよう常に心と気を配り行動するよう会議等にて、周知徹底している
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の交流センターに将棋を指しに行ったり、日々の買物や夏祭りへの参加、神社への参拝、回覧板、セラピー犬の散歩等交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	書道・ダンス・民謡踊り・三味線・尺八などボランティアの方々にご協力頂き、また、事業所主催のニチイ祭り等において、地域の方々と交流し、入居者様と職員との関り方、認知症への理解を得るようにしている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣に自治会・町内会がない為、市職員さん、民生委員さんにお越し頂き、入居者家族2名（各ユニットから1名）施設ケアマネージャーと管理者で2ヶ月に一度開催。運営報告、祭事（写真等を回覧）報告、今後の予定等報告の後、質疑・応答。ご提案いただいたことは、カンファやホーム会議等で検討し日々のケアに反映している。自治会・町内会に変わるところを模索してはいるが、良い結果を導き出せていない。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に出席いただく事、認定調査など以外は、電話などでのやり取りが主になってしまっているのが現状です。今後密に連絡を取り、情報交換を心がけたいと思います。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯防犯上を除き開錠をしております。カンファ・勉強会を開き拘束、虐待についての知識は周知徹底し、実施しております。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修を通じて理解を深めると同時に報告・連絡・相談を密にし、最新の注意を払って対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修テキストを作成し、また、ケアマネも各種研修に参加し、それを基に難関計画を立て毎月研修会を実施している
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語や、難解な言葉を避け、分かりやすい言葉で説明させていただいている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際などにご意見、ご希望を伺い、日々の生活に反映し、その成果、過程を次回の会議の議題にしたりして真摯に声を受け止め、実践に生かしている
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファや会議だけでなく、日頃から職員が相談や意見が言える環境作りに努め、その声を運営に活かすように努めている。事務所主催の懇談会を行うことにより、シフト勤務につき、少人数での対話を行っている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社としてもキャリアアップ制度を設け、スキルアップやその努力に応じた昇給・昇格を図っている。また、ホームとしてもホーム内独自で新設したサブリーダーの使用核を図り、また、各々が十二分にスキルを発揮できるようにトップダウンでの指示をさけ、ボトムアップによる意見集約を行うことで自発的な行動を促す体制にしている
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回テクニカル研修が実施され、各々のスキルアップが図れる研修が実施されており、また、外部研修への参加も促している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内にて運営しているホームの管理者が一堂に会して報告や検討を行う地域連絡会への参加も奨励している

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネとともにユニットスタッフ・管理者がご利用者の声を傾聴し、また、それを繰り返す事で強い信頼関係作りを行っている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	知識・経験を活かして、常に事務所を開放し、面会に訪れた時などに気軽に質問や相談が出来るようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ・管理者がご家族ならびにご利用者の状況を鑑みながら系列の事業所並びに近隣事業所へのサービス利用を促している
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を鑑みながら、かつ、声を傾聴し、ご利用者がその人らしく生活できる様に支援し、職員は後方支援的役割に徹し、自発的な生活が営めるようにアドバイスしている
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	素朴な疑問等を傾聴し、信頼関係を構築しながらともにケアする関係づくりに努めている
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等と食事に出かけたり、友人がボーリングなどに誘いにきたり、入居前から通っていた将棋会へ引き続き通ったり、また、なじみのスーパーへ職員と一緒に買物に行ったりしている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時などに職員が間に入りながら他の方との会話を楽しんだり、食事作りなどの作業をともにしながらコミュニケーション等が希薄にならないように努めている

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先が提携病院でもあることから、通院等で病院を訪れた際に面会し、その支援に努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中の会話から、希望・要望を聞き取り実現可能にするために、ミーティングを設け、かなえられるようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のケアの中で、話しを傾聴しながら他のスタッフ等と話し合い、記録したりし、その把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、話しを傾聴しながら、他のスタッフ等と話し合い、記録したりし、その把握に努めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネは、随時、家族と面会し意見集約し、それを迅速にカンファにて討議し、計画への反映に努めている。職員は利用者や家族等から話しを聴き、主治医や協力医療機関の医師の意見を基に月1回の会議やカンファレンスで意見等を交換して介護計画を作成している。職員は日々の支援の中で利用者を注意深く観察し、心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫に関しては、スタッフで個人差があるものの概ね出来ているが、今後は、研修をさらに重ねて極端に職員間で気づき等に格差が出ないように努めていく
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ間にスキルの格差があるため、柔軟な支援とまでは行かず、画一的な支援が否めない状況であり、研修等を重ね、その支援に早急に取り組めるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	原文どおりにしている
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原文どおりにしている
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師との関係も良好で、些細な異変等の連絡でも快く対応くださり、職員も得られたアドバイスに基づき対応している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先病院との関係も良好で、今後もそのように努めていく。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状においては、会社方針においても実施の運びとはなっておらず、提携先病院や、他の病院・施設への転院措置となっている。家族からもそれに関しての苦情等はなく、相応の理解がなされている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署等において応急処置講習を受講し、また、訪看や提携医より指示を仰ぎ、その実戦力を深めている
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置も済み、避難訓練も昨年同様に実施予定で、昨年以上に近隣住民の参加を促し、スタッフともども昨年以上に技術を見につけたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重したケアを心がけており、言葉がけについてもそのように対応している。個人情報のファイルは事務所の鍵のかかる棚に保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的に行動したり意思表示できるように本人のニード喚起を日々のケアの中で実践し、それを深めるよう対応している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自発的に行動したり意思表示できるように本人のニード喚起を日々のケアの中で実践し、それを深めるよう対応している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自発的に行動したり意思表示できるように本人のニード喚起を日々のケアの中で実践し、それを深めるよう対応している
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はユニットごとに利用者と相談して決めている。利用者できる範囲で食事の準備や調理、配膳、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。職員は同じテーブルに座り、利用者が安全に食事が出来るよう見守っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	簡易計算による必要量を算出し、それに基づいて日々ケアに当たっている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を考慮したケアを行い、訪問診療・訪問診療の一環の訪問ケアの指導による口腔ケアを行っている。スタッフも講習を受け知識を高めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ADLを鑑み、また、日々の食事量や水分量を考慮し、パットの使用量の軽減や自力排泄の促しを日々のケアに取り組んでいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤等に頼らず、自力排泄できるよう食事や生活の見直しを図り、又提携医や訪問看護との連携を深め、予防・対応に努めている
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴が出来る体制を整え、午前から入浴が出来るように準備し、午前から入浴が出来るように准しているほか、同姓の職員が対応するように配慮している。入浴を拒む利用者には時間を掛けながらタイミングを見計らってやさしく言葉を掛けて、入浴が出来るように支援をしている。入浴剤を用いている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人生活リズムを尊重し、そのようにしている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等を職員が把握し、また、提携医と連携し、その確認にも努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式にてご家族様等から情報収集をし、生育歴を踏まえたケアプランの作成し、それに基づいた生活の流れ作りに努めている
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には意向に基づき近隣等への散歩に出かけ、ご家族においても積極的に面会にて来ていただけており、その際、食事や散歩等ご本人の意向を踏まえた対応が取れている

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則、事務所にて保管しており、ご本人の意向に置いて、安全面を考慮し、それに基づき必要額のみお渡しし、買物等に出かけるなどのケアを行っている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>公平性等の観点から時間制限等は設けているものの、時間内においては、電話使用できている。手紙に関しては、制限なくやり取りしていただいている</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>スタッフとの共同制作したものを掲示したりしているが、その際に使用する紙などの色も刺激とならない色にするなど配慮している</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアやテラス等を常時開放し、ご利用者同士がいつでも集える環境を整備している。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族等と相談し利用者の使い慣れた家具や道具類を持ち込んでもらったり、居室の目印となるように入り口に利用者の好みの江や花飾りを付けるなど、利用者が居心地よく暮らせるように工夫をしている</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>間違いやすいところには、立て札のようなものをつけるなどして混乱を防止し、自らの意思や力で行動できるように配慮している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない